

メモ取りの極意 熱心に聞き入る 近大付属中1年生140人



出前授業



授業を行う産経新聞の野瀬吉信地方部長（左）と編集企画室の田井東一宏次長—東大阪市の近畿大付属中学校

新聞を授業に活用するNIEの一環で、東大阪市の近畿大付属中学校で29日、産経新聞編集局の野瀬吉信地方部長と編集企画室の田井東一宏次長が「メモ取り

の極意」と題した出前授業を行った。授業は2日間に行わたって行われ、この日は1年生約140人が野瀬部長の話をもとにメモを取り、即席で感想文を作成した。

同校では生徒の文章力や対話力アップに向けた授業に力を入れる。出前授業は50分で、1年生約290人を対象に実施。野瀬部長の自己紹介と質疑応答をもと

にメモを取り、10分間の短時間で200字詰め原稿用紙に人物像をまとめる。

田井東次長が冒頭、「メモを取るのには頭の中を整理すること。大事だと思うキーワードや話し手の思いを語った言葉を簡潔にメモにすると、後で文章にしやすい」などと指導。野瀬部長が経歴や事件記者だった当時の体験、取材の際の思いなどを語った。

生徒らは「記者としてつらかったことは」「取材で心がけていることは」などと質問して情報を補足し、メモを参考に感想文を書き上げた。メモが苦手だったという西賀莉子さん(13)は「コツが分かり、通常の授業でも使えそう。たくさん本などを読んで文章力も磨きたい」と話した。